

2022年度 事業計画書

自：2022年4月 1日

至：2023年3月31日

当財団は、これまで研究助成とフォーラム・シンポジウム等開催助成を中心に、情報科学分野の研究活動に対し、過去26年にわたって累計 6億1845万円を助成してきた。本年もその方針を維持しつつ、助成事業を中心に置き、情報科学の振興を図り、学術の発展に寄与していく。

公益目的事業

公益目的事業1

助成事業

1. 研究に対する助成

大学等、公的研究機関などそれらに属する研究者が行う情報科学に関する研究に対し、次により研究費の助成を行う。

(1) 研究助成金額

予算総額 2,000万円

(2) 助成対象研究の募集及び選考

大学等、公的研究機関などそれらに属する研究者等から情報科学に関する適切な研究テーマを募集し、その中から選考委員会において研究助成対象者を選考する。

(3) 募集期間

2022年6月1日（水）～2022年8月31日（水）

決定は2022年11月中旬。

2. 国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会の開催に対する助成

(1) フォーラム・シンポジウム等開催助成

予算総額 200万円

(2) 募集及び選考

国際会議、学術講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー、研究集会及び研修会を募集し選考する。

(3) 募集期間

2022年6月1日（水）～2022年8月31日（水）

決定は2022年11月上旬。

公益目的事業2

フォーラム等開催事業

講演会、フォーラム、シンポジウム、セミナー研究集会及び研修会の開催

「第20回 Kフォーラム」開催

日時 2022年8月25日(木)～27日(土)で開催予定(2泊3日)

場所 ホテルアソシア高山リゾート

表題 ざっくばらんフォーラム「AI・ロボットも使ってこそ使われてこそ
— 新たな共生時代のニューノーマルを生抜く—」

予算 500万円(事前・事後事務経費全て含む)

【趣旨】

コロナ感染状況に配慮して2020、2021年度のフォーラムは中止したが、2022年度は、コロナとの新たな共生によるニューノーマルにおける意味合いも含め、「AI・ロボットも使ってこそ使われてこそ — 新たな共生時代のニューノーマルを生抜く —」をテーマに、以下の趣旨で開催したい。

コロナ禍でリモート勤務、オンライン講義、学会や講演会もオンライン、世の中、デジタル化が進み、社会のありようの変化を実感したのでは。「何でもAI」と言っていた時は過ぎ、AI・ロボットは、実用の段階になり、社会実装も進みつつある。DXの中核技術と目されている。AI・ロボットが本当に実社会で普及し信頼され日常の営みに馴染んだ存在になるには「使ってこそ使われてこそ」ではないか。使ってこそ新しい気付きがあり、使われてこそユーザーの求めが知られる。信頼され頼られる技術が生れる。

ニューノーマルの時代、AIやロボットの最新技術の研究開発、社会実装を精力的に進められ、最新的话题を提供し討論を展開していただける方々をお招きし、AI・ロボットの最新技術を使った明るい未来を展望できるような議論の展開を試みたい。談論風発興味つきないフォーラムになることを期待する。

公益目的事業3

機関誌、論文集刊行及び啓蒙事業

出版物の編集及び刊行等

- ・財団機関誌(K通信)を6月(No.51)と12月(No.52)に発行する。
- ・財団機関誌の配布及びホームページへの掲載などの啓蒙活動の実施。

その他

1. 公告・情報公開

情報公開や情報発信、機関誌の掲載などホームページの内容を充実させるなど、ホームページを活用した活動を行なう。

2. 特定費用準備資金

設立30周年(2025年度)に向け、記念事業実施のための積立を行なう。計画は、5,000万円を積立。2022年度は500万円の積立。

3. 情報学シンポジウム後援

2022年度「情報学シンポジウム in 名古屋大学」を継続後援する。後援費用は100万円で、法人会計 雑費とする。

以上